

コラム 「吹雪の視界情報」や暴風雪災害の対応についてメディアで情報発信

積雪寒冷地の冬期道路では、吹雪による交通障害がしばしば発生するため、防雪柵等の吹雪対策施設の整備が行われています。近年、地球温暖化などの影響により、今まで経験したことのないような激しい暴風雪が発生し、吹雪対策施設による対応が困難な状況も見られます。

こうした状況では、吹雪に関する最新の情報を伝えることにより、吹雪時の道路利用者の行動判断を支援し、吹雪を回避することが極めて重要と考えられます。

雪氷チームでは、気象データから視程を推定する技術を開発し、平成 25 年 2 月よりインターネットサイト「吹雪の視界情報」で、北海道を対象に旧市町村単位で視界不良の現況と予測の情報提供を開始(図-1)しました。平成 25 年 12 月からは、近年急速に普及が進むスマートフォン向けの情報提供サイトを公開し、移動中の道路利用者の利便性向上を図るとともに、視界不良に関するメール配信サービスを開始(図-2)しました。平成 27 年度は暴風雪警報発表中の情報の使われ方を分析し、吹雪の視界情報と合わせて利用する頻度の高いリンク先を配置する改良を行いました。

平成 25 年 3 月の暴風雪災害から 3 冬期目を迎えて、PR 用チラシを道の駅や自治体などで配付した結果、市民向けの防災情報として今年もテレビで 7 件、新聞で 4 件報道(図-3)されるなど、これまでにテレビ、ラジオ及び新聞報道で 85 件報道された他、自治体広報誌、Twitter 等で広く紹介されました。このほか、各機関が市民向けに発行するパンフレットや消防ダイアリーなどで配付(図-4)されたり、測量設計業務安全ガイドブック((一社)北海道測量設計業協会)により工事関係者に配布されるなど、多くの方々に活用されています。



図-1 現況と予測情報【PC版】

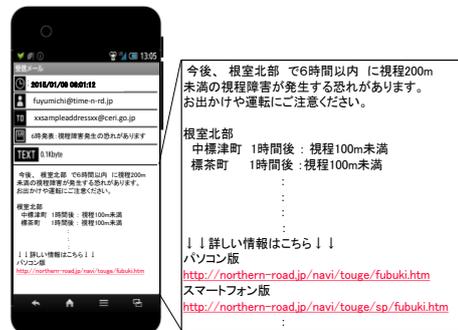


図-2 吹雪の視界情報メール配信サービス



図-3 テレビで「吹雪の視界情報」を説明する松澤上席研究員



図-4 日本雪氷学会発行のパンフレット(左)、消防ダイアリー((公財)札幌市防災協会)(右)